

第3回市民公開講座

よいケアとは何かを考える

日時

2016年1月21日(木)
12:30-15:40

会場

日経ホール
東京都千代田区大手町1-3-7
日本経済新聞社ビル 3階

基調講演

フランスの介護施設におけるケア
ユマニチュードの導入とその成果

同時通訳

カンディダ・デルマス

EHPAD Les Jardins Du Rival 老年医学科長

シンポジウム よいケアとは何かを考える

- ケア実践の場からの報告

株式会社あおいけあ代表取締役社長

加藤忠相

- ケアの実践者を育てる教育

聖路加国際大学学長

井部俊子

- 平穏死の視点から考えるよいケア

特別養護老人ホーム・芦花ホーム 医師

石飛幸三

- 総合討論

司会 東京都健康長寿医療センター

伊東美緒

ジネスト・マレスコッティ研究所 イヴ・ジネスト

入場無料・参加事前登録制 申し込み：<http://seizon.umin.jp/>

主催：公益財団法人生存科学研究所・国立病院機構東京医療センター 後援：日本医学会

第3回 市民公開講座 「よいケアとは何かを考える」

開催にあたり

生活環境や医療技術の進歩にともなって長寿国となった日本では、高齢者がケアを受ける必然性も高まっています。ケアが行われる場所は家庭、長期療養施設、病院とさまざまですが、ケアを必要とするひと、とりわけケアの受け入れが困難な状態にあるひとに、穏やかにケアを受け入れてもらうにはどうすればよいのかについて、それぞれの現場では試行錯誤が続いています。

フランスで生まれ、36年の実績をもつケアメソッド・ユマニチュードは、知覚・感情・言語による包括的なコミュニケーションに基づくケアの技法で、ケアの現場が直面している問題に対する解決策のひとつとして注目され、初めて日本へ紹介されてから4年がたちました。

今回3回目となる市民公開講座では、「よいケアとは何か」を考えます。フランスでのユマニチュード導入実施経験の豊富な老年医学専門医のキャンディダ・デルマス先生による基調講演、次いで施設・教育・看取りの現場における日本の第一人者による提言を踏まえて、参加者全員による総合討論を行います。

市民公開講座実行委員会

プログラム 2016年1月21日（木）

11:30 開場
12:30 開会の辞
青木清 公益財団法人 生存科学研究所 理事長

12:35 基調講演
「フランスの介護施設におけるケア」
ユマニチュードの導入とその成果
キャンディダ・デルマス
EHPAD Les Jardins Du Rivalier 老年医学科長

13:35 休憩

13:45 シンポジウム
「よいケアとは何かを考える」
提言：加藤忠相・井部俊子・石飛幸三
総合討論
司会：伊東美緒 イヴ・ジネスト

15:35 閉会の辞
武田純三 国立病院機構 東京医療センター 院長

会場のご案内



最寄駅
東京メトロ・東京都営地下鉄
大手町駅 下車C2b出口直結

公益財団法人 生存科学研究所

本研究所は、急速な科学の進歩により生じる新たな危機から人類をまもるため、凡ゆる領域から総合的に『生存』問題に取り組む研究所として、医師会会長を長く務めた故武見太郎先生により1984年に設立されました。その活動はホームページ (<http://seizon.umin.jp>) に掲載されています。会員は生存科学に関する自主研究を様々な視点から行い、講演会、シンポジウム、あるいは学術誌「生存科学」を通じ、広く一般の方々とその成果を共有するよう努めています。

国立病院機構東京医療センター

当院は患者のみならずともに健康を考える医療の実践を理念とする総合病院です。1884年に海軍軍医学校第二付属病院として誕生し、その後1945年に国立東京第二病院、2004年に国立病院機構東京医療センターと名称を変更し現在に至ります。感覚器疾患の高度専門医療施設の機能をもつ一方、地域社会の健康を支える地域医療支援病院でもあります。とりわけ総合内科は総合診療の分野では日本でも有数の歴史と規模を有し、老年医学にも力を入れています。